

被災地を支えるために ——二年目の取り組み

門田弘之

岩手県学童保育連絡協議会事務局次長/
滝沢村・巣子学童保育クラブ第一 指導員

支援プロジェクトチームを発足

——現地の「今」を知ること

岩手県学童保育連絡協議会（以下、県

気仙地区指導員部会の再開

沿岸地区を対象にした指導員研修会を重ねていくなかで、現地の指導員から、「震災直後は、それぞれが毎日、学童を開けるだけでも大変な状況で、お互いの様子もわからずにその場をしのいできた感じがする。現在、普段の生活を取り戻しつつあるなかで、震災以前のようにより地域の指導員同士、気軽に話しあい、支えあいながら行っている会などを開催していきたい」との声が聞かれるようになりました。二〇一二年六月・七月には県連協が講師を派遣し、現地の指導員部会の活動充実に向けたお手伝いを行いました。

合宿研修会の分科会にて……

二〇一二年八月二五―二六日、県連協主催の二六回合宿研修会を花巻市で行いました。昨年度は被災した地域からの参加者は数えるほどでしたが、今回は四〇名を超える参加があり、この一年間のそ

連協）は、県連協研修部が試行錯誤しながら行ってきた支援活動（①各研修への参加補助、②保育支援のコーディネート、③指導員の心のケア、④沿岸地区を対象にした研修会の開催、⑤NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの協力体制）をより確実に行っていくために役員会で議論を重ね、今年度「支援プロジェクト」を新たに立ち上げ、刻々と変化する現地のニーズ把握に力を入れてきました。

内陸部からの選出中心だったこれまでの県連協の役員体制も見直し、各地区から一定数の役員を出してもらうことで、沿岸地区から情報が届けられるようになり、的確な情報を得ることができるようになりました。そのようななか、現地から、「浸水した地域のバス停で、下校した子どもたちが、日に何本かしかこないバスを何分も待っている状況がとてもやりきれない」という声があがりました。そこで、かねてより沿岸部から選出される県連協副会長を務める阿部氏が相談を受け、今年度四月から、大船渡市に「うみ

それぞれの歩みを振り返ると涙が出る思いでした。

「被災地を支えるために」——二年目の取り組みをテーマに行われた分科会では、さまざまな困難を抱えながら、それでもなお、前に進まなければ……という思いと、心の痛みが報告されました。「子どもたちの被災状況があまりにも違ったために、一人ひとりどう向きあうか？ どう対応したらよいのか？ 現在も悩みながら保育している」「あまりにも被害が大きかったため、再開のめどが立たず、保育する場も見つからず……。なんとか公民館の台所のスペースを借りて保育してきた」「当時の話を聞くことで、その時の状況が思い出され、苦しくなる」……。

学童保育を再開するまでの苦勞とその後の運営の大変さ、子どもたちへの関わりのおもしろさ、指導員の心の状態……等々をあらためて認識しました。

また、分科会では、現地の方々も、支援に入る方も、お互いにとまどいを抱え

ねこキッズ」、陸前高田市に「たけのこ学童保育クラブ」が開所されました。

長期休みの保育支援について

長期休みの一か月前に調査を実施して県内（岩手県内陸部）の各学童保育から指導員を募る体制を整えたと同時に、現地との日程・内容調整を行いました。とくに小学校の長期休みに保育支援のニーズが高く、三月の春休みには、単発的ではありませんでしたが、内陸部の指導員が支援に入ることができました（夏休みも同様の募集を行いました）。現地にはいたりませんでしたが、現地のニーズを把握し、今後も継続して支援体制を整えていきたいと思います。

セーブ・ザ・チルドレンとの連携

NGOセーブ・ザ・チルドレンには、震災当時から、県連協が支援を行ううえで大きなご尽力をいただき、現在も連携を取りながら、指導員の研修等を支援していただいています。

ていることが浮き彫りになりました。あらためて、「対等な立場での協力関係が求められていること」を強く感じました。同じ被災した地域であっても、置かれている状況や立場はそれぞれ異なり、「この取り組みをすればよい」と一概には言えない状況があります。現地としては、自分たちでできること、仲間組織に支援を求めること、行政にお願いしていくこととの区別や整理を行っていくこと、同時に、それに寄り添った支援が重要だと思いました。

* * *

県連協の支援活動は、全国の本当に多くの方々からの支えによって実現できています。「応援しているよ!!」という手紙や声に、たくさん元気もらいましたし、私たちの力になっています。心から感謝申し上げます。

「三・一一を忘れない!! 私たちを忘れないでほしい!!」。このことを胸に、風化させることなく、末永いご支援・応援をよろしくお願いいたします。